



第21回 日本計画行政学会 計画賞（2025年度）応募計画

「大刀洗町パートナー企業」制度 による人財共創まちづくり計画

現場の対話と段階実装から政策へ（2023-2025）



応募者 大刀洗町
発表者 山田 貴裕（日本計画行政学会会員）
棚町 寿
推薦者 竹川 克幸
（日本経済大学 経済学部教授／日本計画行政学会 九州支部）



暮らしの基盤がある大刀洗町

- ✓ 人口：16,169人（07.12.31現在）
- ✓ 子育て支援の充実により、若年層・子育て世帯が増加傾向
- ✓ 住民同士のつながりがあり、地域コミュニティが維持されている
- ✓ 既存企業＋新たな進出企業が点在し、地域の中で共存している





郊外構造で“担い手”が見えにくい

- ✓ 町内に事業所は多い
事業所510（法人319）
- ✓ しかし労働力は町外へ流出
労働力7,963人のうち
→5,242人以上が町外へ
- ✓ 一方で日中は町外から流入
町外通勤就労者 3,196人
（人口の約5分の1規模）

→住民票では捉えにくい（日中の担い手）

大刀洗町（町内企業）





1

計画の概要

- 「見えにくい担い手」を地域の力に-
- 地域の実態から生まれた計画の全体像



現場で見えた違和感と地域と関われない構造

- ✓ 町には**企業**があり、日々**多くの人**が働いている
- ✓ しかし、その人たちは、「**地域の担い手**」としては捉えられていない
- ✓ 現場では**関わっているのに**、**地域と関われない人**が多く存在していた

➡**地域を支えているのに、地域と接点を構築しにくく構造**

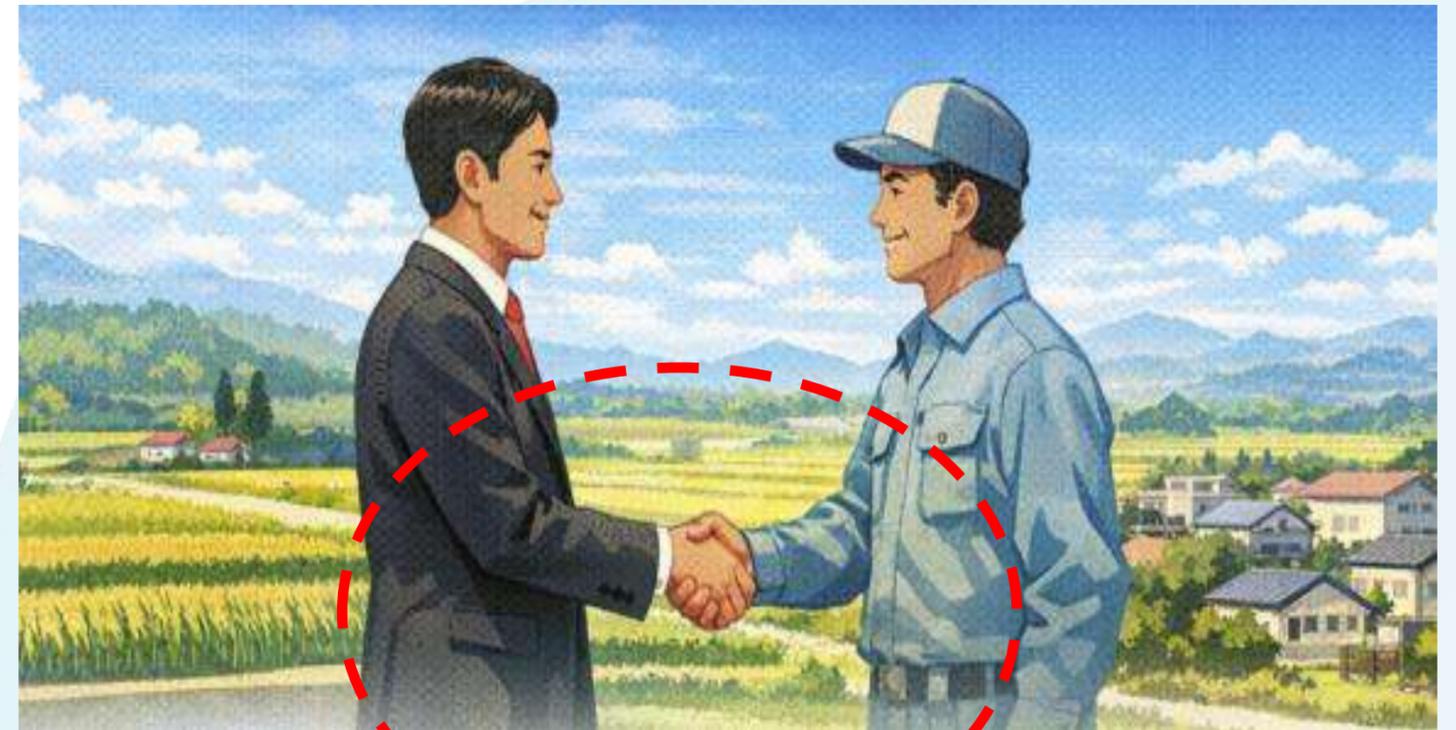




住民票基準という制度の盲点と 関与基準の転換

- ✓ 行政制度は、**住民票・税・世帯**を基礎に設計されている
- ✓ 政策の対象は、原則として「**住んでいる人**」
- ✓ その結果、働いて関わる人（**通勤者・通学者・実習生等**）は制度の外に置かれやすい

⇒関わっていても、**制度上は“いない”**ことになる



“**関与基準**”への転換



「大刀洗町パートナー企業」制度

働いて関わる人に焦点を当てたまちづくり計画



地域づくり活動の創出

— 企業・地域が循環する「人財共創の基盤」を形成



Step 3 | 相互理解

— 少人数制の交流・対話により、**共通の課題・関心から共創が生まれる**



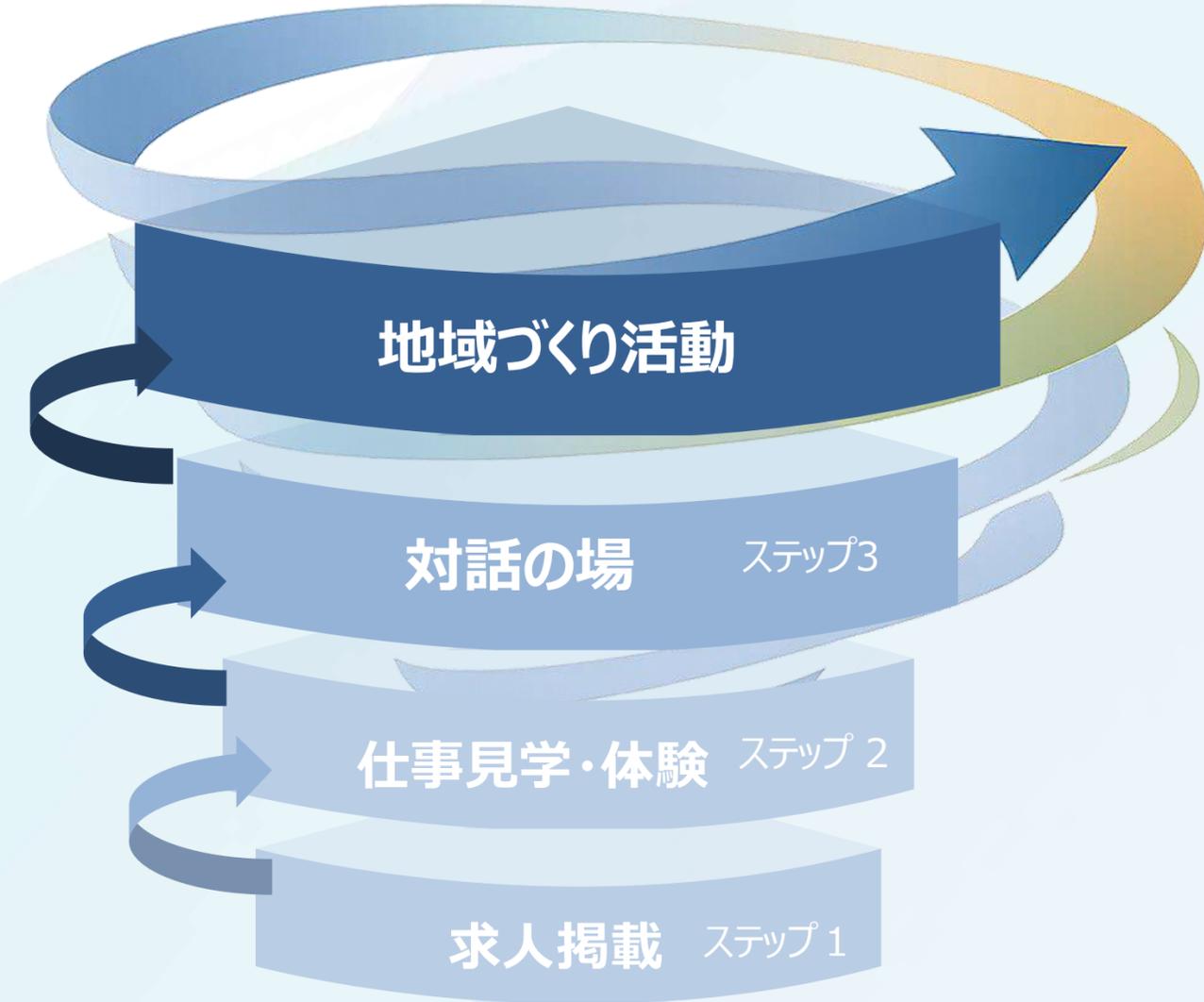
Step 2 | 相互認知

— 企業見学・体験を通じて
企業と地域が“顔の見える関係”になる



Step 1 | 見える化

— 町内企業・働く人の存在を**可視化**
求人掲載・情報発信を通じた接点づくり



人財共創を生み出す3つのステップ



2

実装に向けた考え方

-段階実装と成果-



Step1 | 見える化

(企業・人の存在を可視化)

- ✓ 町内企業と仕事の情報を**定期的に発信**
- ✓ 求人掲載を通じて**企業と地域・求職者の接点を創出**
- ✓ 「関われる企業」が**地域に見える状態を整備**

実績

- 掲載回数：**13回**（2023年10月～2024年10月）
- 掲載企業：**24社**
- 掲載件数：**41件**
- 採用実績：**8名**（うち6か月以上継続：2名）





Step2 | 相互認知

(見学・体験)

- ✓ 見える化をきっかけに**企業見学・体験の場を創出**
- ✓ 企業と地域、参加者が**顔の見える関係**を形成
- ✓ 「知らない企業」から「**関われる存在**」へ

実績

- 実施回数：**4回**（2024年1月～2025年1月）
- 協力企業：**12社**
- 参加者：**57名**
- 町内雇用促進・障がい者雇用の創出にも寄与

要予約
3/11迄

大刀洗町で働こう！

よかところ巡り
合同企業
見学体験ツアー
3/18月
15:00～17:00

協力企業

コスモテックス
クリエイト・オブ・アグリカルチャープラン

企業紹介・紹介ポイント
企業紹介・紹介ポイント
企業紹介・紹介ポイント
15:00～16:00

企業紹介・紹介ポイント
企業紹介・紹介ポイント
企業紹介・紹介ポイント
16:00～17:00

お問い合わせはお電話またはメールアドレスより
〇〇課 123-456-7890
t....





Step3 | 相互理解

(対話の場)

- ✓ 少人数制の**人財共創交流会**を実施
- ✓ 企業・地域・関係者が**立場を越えて対話**する場を設計
- ✓ 雇用に限らず、**地域課題と企業資源を掛け合わせた共創**が発生

実績

- 実施回数：**3回**（2024年3月～2025年3月）
- 参加企業・団体：**延べ11社・団体**



大刀洗町を中心に
地域未来創造プロジェクト

ま	ち	と	仕	事
共	創	交	流	会

成長意欲の高い魅力的な志を持った方が集まる“場”
「まちの発展・産業の成長・ひとの醸成」

【開催予定月】
8月 11月

【参加者イメージ】
・まちづくりに関心のある方
お勤めの方/フリーランスや個人
・社会貢献に関心のある組織、団体
役員の方/決裁権を持つ役職の方

【参加方法】
ご参加ご希望の場合は、必ず事前（開催予定月迄に、可能な限りお早め）に、主催者までご連絡下さい。

後援：やひろ食道 / 大刀洗町こども食堂





企業・地域が、続けられる形での制度化

- ✓ 協働や地域づくりが**自然に生まれ、継続する関係へと発展**
- ✓ 制度開始時点で、**24社の企業がパートナー企業として登録** (08.02.12現在)

➡“**日中の地域の担い手**”が
増えていく**基盤の形成**



3

計画の特徴

-現場起点・段階実装・制度化を一体で
進めた点-



エビデンスに基づき、制度につながる計画を導出

- ✓ 労働白書
- ✓ 中小企業白書
- ✓ 総合計画・住民自治論
- ✓ ステークホルダー理論

⇒ 制度につながる計画モデル

企業活動を**経済的側面**と**社会的側面**の両面から捉えるフレームワーク

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
価値創造プロセス Value Creation Premises	企業活動 Activities Premise	提携・連携 Alignment Premise	相互作用 Interaction Premise	相互利益 Reciprocity Premise
ステークホルダー・ ワーク Stakeholder Work	認知 Stakeholder Awareness Work	特定 Stakeholder Identification Work	理解 Stakeholder Understanding Work	優先順位付け Stakeholder Prioritization Work
ステークホルダーと の関係構築の流れ	潜在的なステークホルダー に関心に向け、重要なス テークホルダーを識別する	ステークホルダーを選定し、 価値創造するの企業活動 を実施する	企業活動に付加価値を 与えるため、ステークホル ダーとの関係理解を深める	重要なステークホルダーを 特定し、価値創造のための 優先順位を決める

フェーズ5：エンゲージメント Stakeholder Engagement Work：組織として活動を実施



計画主体

- ✓ 地域おこし研究員に委託し、**対話・関係構築から事業設計・実施までを一気通貫で実装**
- ✓ 行政の信頼性（公平性・説明責任）と**現場の機動性**（迅速なアクセス・伴走）を両立

制度化・展開可能性

- ✓ 研究員の調査活動を起点として、令和5年度に「**大刀洗町求人情報等掲載事業**」を要綱により制度化
- ✓ 実証成果を第3期「**大刀洗よかまち創生プロジェクト**」へ反映
- ✓ 令和7年度、「**大刀洗町パートナー企業**」制度として要綱化・実装
- ✓ 郊外都市型自治体に共通する課題に対応
→ **福岡県内34自治体**へも展開可能なモデル





4

計画・制度化のその先へ

-持続と拡張の現在地-



現場から学術へ、学術から政策へ

- ✓ 大刀洗町 × 慶應義塾大学SFC研究所
「**大刀洗みらい研究所**」を設置
-町職員も参画し、共に学び・実証
- ✓ 各種学会・研究機関で研究報告
-本研究活動は**日本計画行政学会九州支部**で発表





各種大手メディアにも取り上げられ、発信が拡大



障害者アートトラック彩る

障害者の絵や書などの「ファンクシオンアート」でラッピングしたトラックが大洗町で完成した。障害者の社会参加や周囲の理解促進を図ろうと、企業と大学と町の産学官が連携した。みんなの「共生社会」を考えるきっかけになればとの願いをこめて、発車した。

7日に町役場でお披露目された。ラッピングされたのは町内の運送会社「ツルク」の10トトラック。町が募集した動物やキャラクターのイラスト、町の風景画、「夢」「道」という書名など181作品が、両側面（全縦2・6尺、横9・5尺）いっぱい描かれていた。

きっかけは昨年12月、企業間の際、障害者アートの活用方法を探しているとした職員に、ツルク側がトラック車体への装飾を提案したことだった。行政と企業の連携に取り組む地域おこし研究員の山田貴裕さん（31）を中心にプロジェクトが始まった。

産学官連携「共生社会考えるきっかけに」

町は近隣の大学にも協力を依頼。賛同した日本経済大（本卒宿市）から1年生約100人が参加し、9月にツルク町内の障害者支援施設小郷学園を訪問。グループワークやミニゲームで交流を深めた。

作品の題やタイトルなどのデザインは学生の意見を基に考えられ、ペイント費用などはツルクが負担した。

同大の末本さくらさん（19）は「それぞれの作品に個性があって好き。障害者って特別な感じ方をしているんじゃないかと思ってたけど、プロジェクトを通じて自分から関わっていいことと心持が変わった」と話す。山田さんは「地域づくりの中でスポットが当たりにくかった人たちが大切な存在だと気づき、豊を取り戻す機会になったと振り返った。

車両はツルクが業務に用い、大学や町などのイベントには無料で貸し出すという。物だけでなく、人のつながりを運ぶトラックが動き出した。（彩野如海）

イラスト、風景画など181作品車体に大洗町で完成



自分のアート作品を探す障がいのある方の姿

産官学連携による“人財共創まちづくり”の具体化

✓ 障がいのある方のアートを町内企業トラックへデザイン

- 企業で働く人が町への関心を高める契機に
- 町内の障がい者の“輝ける場”の創出
- 日本経済大学とも連携し、関係人口を拡張



本計画が示した価値

1. 社会的ニーズと先見性

- (i) 郊外型地域における「見えにくい担い手」への着目
- (ii) 人口・雇用・多様化する働き方の変化に対応

2. モデル性・発展性

- (i) 理論×実装×制度を接続した**再現可能な計画モデル**
- (ii) 他自治体でも応用可能な**段階実装型アプローチ**

3. 実現性・社会的有効性

- (i) 行政直轄・小規模予算による**継続可能な運営**
- (ii) 雇用・地域活動・人財育成への波及

4. 参加・合意形成の工夫

- (i) トップダウンではなく**対話と実装を起点とした計画策定**
- (ii) 企業・地域が**自発的に関わる設計**

5. 進行管理と評価

- (i) 段階実装による**無理のない進行管理**
- (ii) 実証→制度化→改善の循環

6. 学習する計画

- (i) 成果と課題を蓄積し**改善を前提とした運用**
- (ii) 変化に応じて**柔軟に更新される計画**

郊外型の地域振興における新しい計画づくりの一つの選択肢へ